成果の説明書

(氏名)　髙橋　済	(学部)　経済学部

1　重要事項

【研究活動】

◆ 論文執筆

① 令和 4 年度・5 年度①に掲載の、自治体の保育所に係る戦略的相互参照行動仮説を地域別に検証した、”Interactions among Local Governments over the Provision of Nursery Facilities: Comparison between Two Metropolitan Areas”を査読や発表時のフィードバックにより改訂し、査読誌への投稿作業を継続した。

② 令和 4 年度・5 年度②に掲載の、同仮説の競争形態の識別する研究である、”Strategic Behaviors in Developing the Provision Policy for Nursery Facilities in Japan: Resource-Flow or Yardstick?” を査読や発表時のフィードバックにより改訂し、査読誌への投稿作業を継続した。

③ 令和 4 年度③に掲載の、人口移動と地域の持続可能性の研究である、” A Study of Regional Sustainability in Japan: Migration, Economy, and Demographics?” の、学会報告時のフィードバックに基づいた改定作業を行った。

◆ 研究報告

④ 報告”Convergence Hypothesis and Mobility: A Policy Analysis”を、「実証財政・公共経済学研究会@愛媛」(於松山大学)において実施した（2025 年 3 月 26 日)。

【教育活動】

◆ **現代経済入門Ⅰ・Ⅱ**　　前期 290 名、後期 404 名を対象に開講した経済学の基礎科目。それぞれ、前半に経済学の基礎知識(Ⅰ：マクロ経済学、Ⅱ：ミクロ経済学)を解説し、後半でニューストピックを経済学で考察する形式の授業を行った。授業出席、専門用語の整理や教科書の学習法などの大学での基本的な学習方法に焦点を当て、WebClass を活用するなど学生が学習に取り組みやすい授業形式を模索した。

◆ **中級マクロ経済学Ⅱ**　　景気循環論や経済成長論、財政政策・金融政策といったマクロ経済学の発展的なトピックを扱っている。これらの発展的なトピックの議論に必要となる、マクロ経済学に関する基礎知識や数学に関する知識を適宜復習し、これらを扱う練習問題も実施した。数学の補足資料を改定し、練習問題を追加した。

◆ **基礎演習**　　ミクロ・マクロ経済学の基本的な知識を確認するために、『経済学って何だろう現実の社会問題から学ぶ経済学入門』(新世社)を、各自(2 名 1 組)が報告する形式で輪読した。教科書の重要な箇所や補足説明が必要なところでは、適宜解説を行った。合間には、アカデミック・ライティングの要点のレクチャーを行った。

◆ **演習Ⅰ**　　財政学・公共経済学の教科書である『スティグリッツ 公共経済学 第 4 版（上・下)』(東洋経済新報社)を、各自(2 名 1 組)が報告する形式で輪読した。報告の合間には、文章の書き方に関するレクチャーを行い、卒業研究のテーマ設定とテーマに関する短文を作成する課題も行った。

◆ **演習Ⅱ**　　『経済論文の書き方』(日本評論社)により、論文の書き方を学習しつつ、『R による計量経済学 第 2 版』(オーム社)によりデータ分析の手法を身に着けた。これらの解説は春学期に行い、秋学期は教室や研究室での論文執筆の直接指導や質問対応を実施した。論文の添削を複数回行い、成果物として論集を発行した。

2　その他の事項

◆ **地域貢献活動**　　地域科学研究所開催の公開講座において、講義『経済学で今の社会を考える~感染症から物価まで~』(第 41 回公開講座-第 3 回)を実施し、経済学の市場理論と感染症の経済への影響、県内の物価の動向を解説した。

◆ **社会貢献活動**　　財務総合政策研究所(財務省)の客員研究員として、研究指導などの活動を行った。また、上毛新聞社より、以下の記事の取材を受け、県内の賃金・物価の動向についてのコメントを行った。

・《物価沸騰 変わる経済》③サービス 人材の需給が逼迫 事業継続、賃上げで明暗(2024 年 8 月 22 日: 本紙報道面掲載)

・『物価高でも値下げ 県内小売店』(2024 年 10 月 31 日: 本紙報道面掲載)

3　次年度以降の計画・抱負

【研究活動】

◆ 論文執筆については、学会報告や投稿作業を通じて、研究の見直しや精緻化を行い、国内・国外の査読誌での公刊に努める。

◆ 『国勢調査』の職業別人口移動データを用いた、地域別の生産性の研究の精緻化を行う。次年度以降の公表・公刊を目指す。

◆ 国内の学会・研究会で積極的に報告を実施する。

【教育活動】

◆ 学生のニーズの把握に努め、授業内容・授業形式の改善を継続的に行う。

◆ **現代経済入門Ⅰ・Ⅱ**については、学生の興味を引くトピックの調査や内容の改訂、引用する新聞記事等の更新を行い、時事性を踏まえたアップデートを実施していく。

◆ **中級マクロ経済学Ⅱ**においては、学生が効率よくマクロ経済学の発展的内容を学習できるよう、数学補論や練習問題の内容の検討・改定を行う。

◆ **基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱ**では、学生の意見を踏まえつつ、学生が経済学を深く理解することができ、社会問題の考察への応用力を身につけられるような、カリキュラムを検討する。また、学生の学問や社会への関心を惹起するような校外学習を実施する。

【その他の事項】

◆ 昨年同様に、大学・地域のニーズに応じて研究・教育活動を行うほか、財務省での客員研究員の活動、地域経済に係る研究も積極的に行い、研究者としての自身の特性を生かした多層的な社会貢献を行って行く。